

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
EU41C203		授業開発力の育成と新教科領域の開拓 (Fostering Lesson Development Skill & Cultivating New Comprehensive Subject field )					高度専門科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1	教育学研究科	前期		氏名 教科教育・教科専門の教員 (担当教員の詳細は「履修の手引き」で確認すること)											
						E-mail kumamaru@oita-u.ac.jp (熊丸:教職大学院教務部会) 内線 7550 (熊丸:教職大学院教											
授業の概要	<p>授業のテーマ:学校教育における「授業」の重要性を理解し、使命感とビジョンをもって学び続けることができる。  予測困難な時代を教科実践の側面から立ち向かうプロフェSSIONナルの育成を目指し、学修者の学びに向かう力(興味・関心、使命感・責任感)を原動力に、1つの教科を深く掘り下げる探究型の学習、多面的・多角的に考える教科連携・融合型の学習等を適宜選択し、学術的な研究成果をふまえた授業実践像を描ける人材を育成する。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 教科指導に関わる高度な専門的知識を利活用し、理論と実践の往還を具体として実践できる																	
目標2 専門的知識を基盤とした省察を行い、成果と課題を踏まえた展望を創造することができる。																	
目標3 修を通して育んだ高度な専門性を、チーム全体の活性化のために生かすことができる。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 現代の教育課題と教科教育学の使命について																	
2 現代の教科教育における「問題の所在」の検討																	
3 現代の教科教育における「問題の所在」の再考																	
4 「教科内容に関する先行研究」の探索と活用																	
5 「教育方法に関する先行研究」の探索と活用																	
6 「教材開発に関する先行研究」の探索と活用																	
7 学術研究における「省察」の在り方について																	
8 学術研究における「知見」の教育実践への還元について																	
9 地域の教育課題に即した「授業モデル」の構想																	
10 地域の教育課題に即した「授業モデル」の再考																	
11 地域の教育課題に即した「授業モデル」の発表																	
12 研究成果の発表計画の検討																	
13 研究成果の発表内容の再考																	
14 研究成果報告会																	
15 研究活動の「振り返り」と今後の教育実践への応用																	
ラ ッ ク ニ テ ン イ ン グ	A:知識の定着・確認	グループディスカッション, プレゼンテーション, フィールドワーク					工 夫 そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	資料の精読(10h), レジユメ・発表資料の作成(15h)															
	事後学修	レポート作成(15h)															
教科書	授業中に指示する。																
参考書	各学校種の「学習指導要領」及び各教科等の「解説」の他、学修者の興味関心に応じて担当教員より具体的な指示がある。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	各回的小レポート	30%															
	グループディスカッション	15%															
	研究成果報告会におけるパフォーマンス(発表や質疑応答)	20%															
	最終レポート	35%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	学校教員経験を有する教員を含む
実務経験を いかした教 育内容	地域の教育課題，現代の教育課題に対応した授業実践や生徒指導の経験を活用し，各院生の研究に対する指導を行う。